障がい者スポーツ振興懇話会
第65号

障がい者とスポーツ

発行責任者／錦戸　富雪　事務局／文化スポーツ振興課　☎072-674-7649

ふれあいレクリエーションスポーツの集い

「ふれあいレクリエーションスポーツの集い」の季節ですが、残念ながら今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となりました。

本事業は高槻市障害児者団体連絡協議会、高槻事業所連絡会、高槻市が主催し、高槻市スポーツ推進委員協議会、高槻市ボランティア連絡協議会、高槻市スポーツ団体協議会などに協力いただき、平成2年度から毎年開催しています。

フライングディスク、ペタビンゴ、リズムゲーム、輪投げ、風船バレーなど、様々なレクリエーションスポーツがありますので、子どもから高齢者までいろいろな方が気軽に参加でき、楽しんでいただけます。

これまで参加したことのない方も来年度は是非参加いただき、たくさんの人とふれあいながらレクリエーションスポーツを楽しみましょう！

私とスポーツ

藤田（ふじた）　務（つとむ）さん
高槻市聴力障害者協会

2021年10月10日（日）、高槻市城跡公園コートで第19回北摂ろうあ者ゲートボール大会が開催されました。

茨木A・B・吹田・高槻チームが出場し、各チーム5人1組になり、2チームずつ点数を競いました。

高槻チームは、全員で協力しながら勝利を目指しましたが、結果は1勝2敗で3位になりました。

優勝は、茨木Bチーム、2位は、茨木Aチーム、吹田チームは4位になりました。

コロナ禍の影響で、グラウンドでの練習があまり出来なかったため、練習不足になり、なかなか上手くプレーができませんでした。

スティックでボールを打ち、最初のゲートをボールが通らない時は、次に打つ順番まで待ち、スタートから再びやりなおします。

でも最初のゲートが通らない事が何回もあり、とても緊張しました。スティックが思っているよりも重たかったという声もありました。

ゲートボールはチームスポーツです。来年こそ「仲間」と切磋琢磨し、力を合わせて勝利できるようにしたいです。

ペタビンゴの紹介

ペタビンゴって？

2021年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本代表選手の活躍により、大いに盛り上がりました。東京パラリンピックでおこなわれたボッチャは、日本代表選手のメダル獲得もあり、大変注目されました。その、ボッチャと競技性が似ており、誰でも手軽にできるスポーツがペタビンゴです。

ペタビンゴとは室内用のペタンクボールを使って、5メートル程離れた、4マス四方の合計16個のマスの中に、赤チームと青チームが交互にボールを投げ、マスの中に入れて得点を競うゲームです。

同じマスに、相手チームのボールが入ってもいいのですが、同チームのボールが入っても、得点は加算されません。

また、縦、横、斜めのいずれかに並ぶとビンゴとなり、ボーナス点が加算されます。しかし、ビンゴになっているボールを相手チームがボールを投げて、当てて、マスの外に出すと、ビンゴを阻止でき、ボーナス点の加算が無くなります。

ビンゴを狙いつつ、相手チームのボールをマスの外に出したり、相手チームの邪魔になるような位置にボールを置いたり、様々な戦い方があります。

室内用のペタンクボールがなくても、ボールとマスがあれば楽しめますので、ぜひ皆さんもやってみてください。

スポーツに関する声

視覚障がい者とスポーツ
「サウンドテーブルテニス（視覚障がい者卓球）」

高槻市視覚障害者福祉協会
会長　佐藤信廣

サウンドテーブルテニスとは、視覚障がい者用にルールを改良した卓球のことです。

台は普通の大きさで、手元にフレームがあります。台の上を鈴の入ったピン球を転がします。したがって、ネットは逆さに吊ってあり、下を3㎝ほど上げてあります。（ピン球の大きさほど）

簡単なようでルールは厳しいです。（例えば、サーブはラケットとピン球の間を10㎝離す）真剣勝負になると、唸りを生じてピン球が右・左に動きます。

毎年、一般の方と交流会を行っております。ぜひ、参加してみてください。

「オリンピック・パラリンピック、そしてスペシャル・オリンピックスに思うこと」

手をつなぐ親の会　堀切公代

ゆう・あいセンターの図書コーナーに「スペシャル・オリンピックス（S・O）」を描いた絵本「ともこちゃんは銀メダル」（東郷聖美・絵、細川佳代子・作、ミネルヴァ書房）があり、気に入っています。パラリンピックはよく話題になりますが、S・Oはあまり知られてないようですし、私も実際見たことはありません。知的障がいのある人のスポーツ活動を促進し成果を発表する機会だということです。絵本の中では、ダウン症の「ともこちゃん」が2歳から始めた体操の競技を楽しむ姿が描かれます。9歳になったともこちゃんがS・Oに出場し、予選では成績は下位だったのに決勝に進出し、結果は銀メダル！お母さんは喜びながらも、予選落ちではなかったの？と思います。しかしS・Oでは、予選はあくまでも同じような障がいの状況の選手同士が公平に競えるように分けるためのもので、「予選で落ちる人はいません」ということです。スポーツにおける合理的配慮ということでしょう。勝ち負けやメダルの数だけが問題なのではなく、一人ひとりの頑張りが讃えられるのがいいです。ともこちゃんの笑顔が印象的に描かれ、パラリンピックとは一味違うS・Oの大会を見てみたいなあと思える絵本でした。2022年は11月に広島で開催される予定だそうです。

それから、いつも思うことですが、パラリンピックの方が後で開催されるので、オリンピックが閉幕するとどうしても世間の関心が薄れるのが残念です。パラリンピックを先に開催するか、順番を交互にするということはできないのかなあと思ってしまいます。

パラスポーツの世界では障がい者も感動を与える立場として称賛されますが、他方でまだまだ一般の障がい者が施設を利用したり大会に出ることにはバリアがあるのが現実です。どんな障がいのある人も好きなようにスポーツを楽しめる社会になってほしいですね。

「ストーク・マンデビル」を訪ねて

高槻市障害児者団体連絡協議会　相談役　篠原信次郎

1995年11月、高槻市障害児者団体連絡協議会の川人会長（当時）と一緒に、大阪府の障害者交流団に参加して、ヨーロッパ4か国を訪問する機会があり、その中でロンドン郊外のストーク・マンデビルセンターを見学することができました。

これまでは毎年、国際的なスポーツの大会が行われており（オリンピックの年はパラリンピックに合流）、障がい者スポーツの発祥の地とも言われています。グッドマン博士を中心に、マンデビル病院でのリハビリテーションの一環として始められ、当初は車イス障がい者だけであったのが、今はすべての障がい者が対象とされています。

見学しての印象は、何よりもそのスケールの大きさです。広大な敷地にグラウンドやプールはもとより、卓球、射撃、ウエイトリフティング、フェンシングからボールセントまで、ほとんどの種目の練習場があり、約百人のスタッフが指導にあたっています。車イスですべてアクセスできるだけでなく、いろいろな障がいにあわせて、設備と練習法にきめ細やかな工夫がされています。三才～五才のプレールームも完備しています。広く市民に開放されていますが、利用は障がい者優先です。ベッド数は四〇〇。最も利用が多いのは金曜日～日曜日で、この二泊三日コースの費用が宿泊費も含め約三千円という安さには驚きました。訓練・練習とリハビリテーション、交流の三位一体の運営が、和やかな雰囲気の中でさりげなく行われている様子を素晴らしいと思いました。

日本でもこんな施設がほしいものです。国や社会の思い切った支援があれば、障がい者ももっとスポーツに親しみ、社会参加を拡げていくことができると強く感じました。

コロナとスポーツ

高槻市腎友会　清水梅乃

うちの次男、現在30歳。小学2年生の終わりから始めたバレーボール、今も現役で続けています。

年に数回試合にも出ています。でも、この2年、試合数も減り、観に行く事も出来ない状態です。でも、当人たちは、マスクを着けて練習したり、試合等、楽しんでいます。

スポーツにもいろいろな楽しみ方があると思います。

競技をする選手も、観に行く私たちも、今の状況下にあった楽しみ方を見つけたいものですね。

障がい者とスポーツ

自立支援センターたかつき
当事者スタッフ　椿本博紀

原稿依頼のお話をいただいた時、何を書こうかと悩みました。それは障がい者とスポーツは縁遠いものに思えたからです。

昨年東京でオリンピック・パラリンピックがありました。私はそのどちらもニュースで知る程度で、熱心に観ていません。もともとスポーツをあまり観ないというのもありますが、特にパラリンピックは私の中では手足など一部が使えて且つ長けている障がい者の中でもエリートだし、そもそも障がい者は競争という類いのものにそぐわないと思うからです。

そんな私ですが、中学時代（地域の学校）は陸上部に所属していました。試合に出るわけではありませんでしたが、放課後に他の部員に混じって、足で地面を蹴って車椅子を漕ぐ練習をしていました。今は電動車椅子ですが、当時はこの練習の成果で自力での移動は出来ました。この経験で夏休みや冬休みも練習に行ったり、先輩後輩ができたりして、いい経験となりました。私の唯一のスポーツの思い出です。

パラリンピックの正式種目　ボッチャ

高槻手をつなぐ親の会　硯啓

ボッチャは重度脳性まひ者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたヨーロッパ発祥のスポーツで、パラリンピックの正式種目です。上から投げても、あるいは下から投げても蹴ってもよい。

ジャックボール目標球の白いボールに赤、青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりしていかに近づけるかを競います。障がい者のみならず一般の人々にも人気があり、障がいがない人も一緒に楽しめる。

ボッチャ高槻大会を開催して、障がいのある人もない人も、誰もが楽しみ、共生社会を目指す機会となればと思います。